

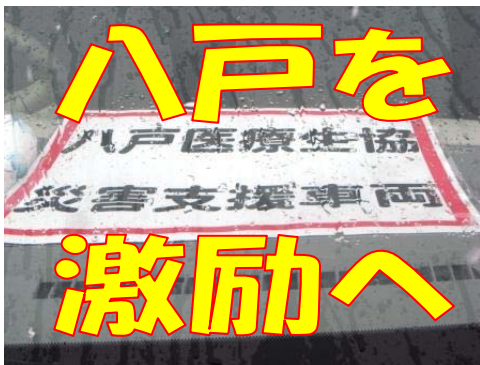
大地震関係ニュース（青森民医連）⑱



2011. 3. 25 12:40
青森民医連 事務局

地震・津波発生後の皆さんのご奮闘に敬意を表します。
県連内の状況を取り急ぎお知らせ致します。
全国の状況は、全日本からのニュースをご参照下さい。

募金額 272,683 円!



連日、被災地域の組合員訪問をおこなう八戸医療生協を激励し、訪問に同行させていただくため、青森民医連の野村次長と岩本事務局員が3/24に八戸に向かいました。

内田理事・木村事務長・荒 Ns と一緒に市川地区の3軒と対話。ここはまだ電気が復旧していないため、日中は片づけ・夜は避難所という方がたくさんいます。雪が降る中、冷たい水道水で手を真っ赤にさせて、泥をかぶった鍋や皿を洗う組合員さんの姿がありました。先の見えない生活に、疲労の色は隠せません。

「津波というより『泥』だった。それが背中まで迫ってきて、追われながら逃げた。1階の天井まで浸水してしまった」「津波が川を逆流し、避難所になっていた小学校にも波が押し寄せた」「仏壇も外に放置したままだ」

工場などの建物も壊れ、がれきの山となっていたこの地区で、死者が出なかったのは奇跡だと感じたそうです。



宮城民医連支援 県連第3隊、黒滝氏（藤代健生病院・副総看護長）からの報告

(3/24 午後) 東塩釜の高台にある地域（津波被害はまぬがれたところ）を訪問。今もライフラインは復旧せず、不便な生活を強いられているが、おおむね反応は良かった。

- ・ 「よく来てくれた」「話し相手がほしい」地震・津波の恐怖がまだまだ影を落としている。
- ・ 「風呂に入りたい。2週間入っていない」水不足を痛感させられる要望。
- ・ 「私たちは命があるだけマシ。こうして生活していることすら申し訳ない」自責の声も。
- ・ 家から出てきてくれない方もいて、地域全体の状況は把握できていない。

【おしらせ】 全国の支援者 950 名超、募金到達 4300 万円となりました。